

1989年 大会記録

国際

マラルカップ=男子グレコローマン(2月、スウェーデン・バステラス)

48kg 級 大橋正教(山梨学院大職) = 9位、佐々木昌恒(自衛隊) = 4位、 57kg 級 西見健吉(自衛隊) = 6位、 62kg 級 西口茂樹(日体大助) = 二失、 68kg 級 三宅靖志(東海商船) = 二失

ニコラ・ペトロフ国際大会=男子グレコローマン(2月、ブルガリア・プレベン)

48kg 級 大橋正教(山梨学院大職) = 三失、佐々木昌恒(自衛隊) = 二失、 57kg 級 西見健吉(自衛隊) = 四失、 62kg 級 西口茂樹(日体大助) = 三失、 68kg 級 三宅靖志(東海商船) = 二失

メドベジ国際大会=男子フリースタイル(2月25~27日、ソ連・ミンスク)

48kg 級 小林孝至(ユナイテッドスティール) = 棄権、 57kg 級 金浜良(日大) = 二失、 68kg 級 赤石光生(ユナイテッドスティール) = 四失、 74kg 級 石川宏明(日大) = 二失、 100kg 級 高橋和生(日大) = 二失、 120kg 級 小幡弘之(日大) = 二失

US国際トーナメント=男子フリースタイル(6月23~24日、米国・コロラドスプリングズ)

48kg 級 若松正(東洋大)、平野孝喜(山梨学院大)、 52kg 級 水野将嘉(早大) = 2位、坂木勇夫(専大)、 57kg 級 山下勝(国士館大) = 3位、岩下充昭(日体大) 62kg 級 奥山恵二(日体大)、 68kg 級 木村孝弘(早大)、 74kg 級 碓修二(国士館大)、 82kg 級 石沢常光(早大)、 90kg 級 秋山潤(専大)、 100kg 級 野々村孝(山梨学院大)、 130kg 級 間山泰範(日体大) = 7位

カナダカップ=男子フリースタイル(6月30日~7月1日、カナダ・トロント)

48kg 級 若松正(東洋大) = 4位、平野孝喜(山梨学院大) = 3位、 52kg 級 水野将嘉(早大) = 6位、坂木勇夫(専大) = 5位、 57kg 級 山下勝(国士館大) = 5位、岩下充昭(日体大) = 三失、 62kg 級 奥山恵二(日体大) = 6位、 68kg 級 木村孝弘(早大) = 三失、 74kg 級 碓修二(国士館大) = 6位、 82kg 級 石沢常光(早大) = 三失、 90kg 級 秋山潤(専大) = 二失、 100kg 級 野々村孝(山梨学院大) = 二失、 130kg 級 間山泰範(日体大) = 7位

アジア選手権（6月30日～7月2日、茨城・大洗町）

《男子フリースタイル》 48kg級 山下忍（日体大）= 5位、 52kg級 石島勇次（茨城・霞ヶ浦高）= 二失、 57kg級 金浜良（ユナイテッドスティール）= 3位、 62kg級 栄和人（奈良県教委）= 優勝、 68kg級 赤石光生（ユナイテッドスティール）= 5位、 74kg級 原喜彦（新潟・新潟北高教）= 4位、 82kg級 菊地隆（和歌山県教委）= 二失、 90kg級 浅沼俊幸（自衛隊）= 4位、 100kg級 中西学（和歌山県教委）= 4位、 130kg級 小幡弘之（日大）= 3位

《男子グレコローマン》 48kg級 大橋正教（山梨学院大職）= 2位、 52kg級 中森昭平（警視庁）= 3位、 57kg級 藤岡道三（日体大）= 2位、 62kg級 西口茂樹（日体大助）= 3位、 68kg級 大久保康裕（自衛隊）= 優勝、 74kg級 伊藤広道（自衛隊）= 2位、 82kg級 屋比久保（沖縄・北中城高教）= 3位、 90kg級 森山泰年（自衛隊）= 優勝、 100kg級 近藤務（自衛隊）= 優勝、 130kg級 出口一也（和歌山県体育館）= 4位

世界選手権（8月24日～9月3日、スイス・マルティニー）

《男子フリースタイル》 48kg級 山下忍（日体大）= 二失、 52kg級 石島勇次（茨城・霞ヶ浦高）= 9位、 57kg級 金浜良（ユナイテッドスティール）= 4位、 62kg級 栄和人（奈良県教委）= 5位、 68kg級 赤石光生（ユナイテッドスティール）= 2位、 74kg級 原喜彦（新潟・新潟北高教）= 9位、 82kg級 菊地隆（和歌山県教委）= 三失、 90kg級 赤石明雄（東山梨教育事務所）= 7位、 100kg級 中西学（和歌山県教委）= 二失、 130kg級 小幡弘之（日大）= 9位

《男子グレコローマン》 48kg級 大橋正教（山梨学院大職）= 7位、 52kg級 中森昭平（警視庁）= 四失、 57kg級 藤岡道三（日体大）= 4位、 62kg級 西口茂樹（日体大助）= 9位、 68kg級 大久保康裕（自衛隊）= 二失、 74kg級 伊藤広道（自衛隊）= 6位、 82kg級 屋比久保（沖縄・北中城高教）= 10位、 90kg級 森山泰年（自衛隊）= 7位、 100kg級 近藤務（自衛隊）= 二失、 130kg級 出口一也（和歌山県体育館）= 9位

《女子》 44kg級 吉村祥子（代々木ク）= 優勝、 47kg級 棗田朋子（吹田市民教室）= 2位、 50kg級 福田京子（代々木ク）= 5位、 53kg級 小滝初江（日体ク）= 7位、 57kg級 坂本涼子（中京女大）= 2位、 61kg級 星川君枝（ユナイテッドスティール）= 3位、 65kg級 飯島晶子（日体ク）= 3位、 70kg級 岩間利香（ユナイテッドスティール）= 3位、 75kg級 清水美弥子（代々木ク）= 優勝

世界エスポアール選手権 = 男子フリースタイル (モンゴル・ウランバートル)

48kg 級 若松正 (東洋大) = 棄権、 52kg 級 藤村和人 (日大) = 二失、 57kg 級 坪井勇 (日体大) = 二失、 62kg 級 川島健二 (早大) = 8 位、 68kg 級 太田拓弥 (日体大) = 5 位、 74kg 級 児玉健 (中大) = 二失、 82kg 級 石庭新吾 (アイシン精機) = 二失、 90kg 級 藤田和之 (日大) = 二失、 100kg 級 野々村孝 (山梨学院大) = 6 位、 130kg 級 高橋則行 (東洋大) = 二失

世界エスポアール選手権 = 男子グレコローマン (ハンガリー・ブダペスト)

48kg 級 浅川亮介 (山梨・峡北高) = 二失、 52kg 級 尾白賢治 (日体大) = 二失、 57kg 級 花原大介 (日体大) = 三失、 62kg 級 松田昌明 (国土館大) = 二失、 68kg 級 明壁正人 (山梨学院大) = 二失、 74kg 級 伊藤強 (早大) = 三失、 82kg 級 渡部秀隆 (自衛隊) = 二失、 90kg 級 高橋和夫 (日大) = 二失、 100kg 級 野々村孝 (山梨学院大) = 二失、 130kg 級 神子沢健一 (自衛隊) = 7 位

ワールドカップ = 男子グレコローマン (11月25~26日、ノルウェー・フレデリクタ)

48kg 級 大橋正教 (山梨学院大職)、 52kg 級 中森昭平 (警視庁)、 57kg 級 藤岡道三 (日体大研)、 62kg 級 西口茂樹 (日体大助)、 68kg 級 森巧 (自衛隊)、 74kg 級 伊藤広道 (自衛隊)、 82kg 級 屋比久保 (沖縄・北中城高教)、 90kg 級 森山泰年 (自衛隊)、 100kg 級 野々村孝 (山梨学院大)、 130kg 級 出口一也 (和歌山県教育庁)

ネール記念国際大会 = 男子フリースタイル (11月26日~12月2日、インド・ニュー

デリー)

48kg 級 小林孝至 (ユナイテッドスティール) = 二棄、 52kg 級 石島勇次 (茨城・霞ヶ浦高) = 三失、 57kg 級 金浜良 (ユナイテッドスティール) = 3 位、 62kg 級 奥山恵二 (日体大) = 5 位、 68kg 級 赤石光生 (ユナイテッドスティール) = 優勝、 74kg 級 有延伸一 (福岡・北九州高) = 二失、 82kg 級 石沢常光 (早大) = 2 位、 90kg 級 浅沼俊幸 (自衛隊) = 4 位、 100kg 級 中西学 (和歌山教委) = 5 位、 130kg 級 本田多聞 (自衛隊) = 4 位

ハパラダ国際大会 = 男子グレコローマン (12月1~3日、スウェーデン・ハバラ

ンダ)

48kg 級 大橋正教 (山梨学院大職)、 52kg 級 中森昭平 (警視庁)、 57kg 級 藤岡道三 (日体大研)、 62kg 級 西口茂樹 (日体大助)、 68kg 級 森巧 (自衛隊)、 74kg 級 伊藤広道 (自衛隊)、 82kg 級 屋比久保 (沖縄・北中城高教)、 90kg 級

森山泰年（自衛隊）、 100kg 級 野々村孝（山梨学院大）、 130kg 級 出口一也（和歌山県教育庁）

国内

全国高校選抜大会（3月29～30日、新潟・新潟市体育館）

《学校対抗戦》[1] 茨城・霞ヶ浦（2年連続2度目）、[2] 静岡・沼津学園、[3] 岐阜・岐阜工、秋田・秋田経法大付

《個人戦優勝者》 46kg 級 佐藤謙二（茨城・土浦日大）、 50kg 級 石嶋勇次（茨城・霞ヶ浦）、 54kg 級 伊藤弘之（栃木・足利工大付）、 58kg 級 石川智久（茨城・土浦日大）、 63kg 級 毎熊潤一郎（福岡・築上西）、 68kg 級 福田貴司（栃木・足利工大付）、 74kg 級 荻田剛志（静岡・沼津学園）、 115kg 級 大竹康司（栃木・足利工大付）

西日本学生春季新人戦 = 男子フリースタイル（ ）

《優勝者》 48kg 級 町井孝（徳山大）、 52kg 級 梅本正人（同志社大）、 57kg 級 西田月巳（福岡大）、 62kg 級 池田展久（桃山学院大）、 68kg 級 古市輝雄（福岡大）、 74kg 級 榎本晴俊（福岡大）、 82kg 級 高田昌俊（近大）、 90kg 級 渡辺康則（徳山大）、 130kg 級 野崎賢治（近大）

フリースタイルのみ

全日本選手権（5月5～7日、日大文理学部体育館、東京・代々木競技場第2体育

館）

《男子フリースタイル優勝者》 48kg 級 小林孝至（ユナイテッドスティール）、 52kg 級 石嶋勇次（茨城・霞ヶ浦高）、 57kg 級 金浜良（ユナイテッドスティール）、 62kg 級 栄和人（奈良県教委）、 68kg 級 赤石光生（ユナイテッドスティール）、 74kg 級 原喜彦（新潟・新潟北高教）、 82kg 級 菊地隆（和歌山県教委）、 90kg 級 太田章（早大教）、 100kg 級 中西学（和歌山県教委）、 130kg 級 小幡弘之（日大）

《男子グレコローマン優勝者》 48kg 級 大橋正教（山梨学院大職）、 52kg 級 中森昭平（警視庁）、 57kg 級 藤岡道三（日体大）、 62kg 級 西口茂樹（日体大助）、 68kg 級 大久保康裕（自衛隊）、 74kg 級 伊藤広道（自衛隊）、 82kg 級 屋比久保（沖縄・北中城高教）、 90kg 級 森山泰年（自衛隊）、 100kg 級 近藤務（自衛隊）、 130kg 級 出口一也（和歌山県体育館）

東日本学生リーグ戦（5月18～20日、東京・駒沢体育館）

《順位》[1]日体大（11年連続13度目9、[2]中大

（A組）[1]日体大、[2]国士舘大、[3]専大、[4]大東大、[5]山梨学院大、
[6]拓大

（B組）[1]中大、[2]早大、[3]日大、[4]東洋大、[5]東海大、[6]明大

西日本学生選手権（ ）

《男子フリースタイル優勝者》 48kg級 山根宣夫（徳山大）、 52kg級 原田丈生（福岡大）、 57kg級 嶋也幸（徳山大）、 62kg級 中井直也（同志社大）、 68kg級 柳本和紀（同志社大）、 74kg級 岡田孝志（近大）、 82kg級 岩本昭宏（福岡大）、 90kg級 永淵智英（福岡大）、 130kg級 横谷豊（徳山大）

《男子グレコローマン優勝者》 48kg級 池田徹（福岡大）、 52kg級 小泉円（同志社大）、 57kg級 山本正志（近大）、 62kg級 中井直也（同志社大）、 68kg級 村上勉（桃山学院大）、 74kg級 岡田孝志（近大）、 82kg級 岩本昭宏（福岡大）、 90kg級 永淵智英（福岡大）、 130kg級 横谷豊（徳山大）

全日本社会人選手権（6月3～4日、東京・青少年総合センター）

《団体戦優勝チーム》 実業団 ユナイテッドスチールA、 クラブ 警視庁

《男子フリースタイル優勝者》 48kg級 東野勝（日野自動車工業）、 52kg級 岩本博行（国士舘大）、 57kg級 角地山豊（警視庁）、 62kg級 吉田実（自衛隊）、 68kg級 泉保久（自衛隊）、 74kg級 大谷睦義（静岡ク）、 82kg級 伊藤敦（京都ク）、 90kg級 有本良孝（和歌山ク）、 100kg級 浅沼俊幸（自衛隊）、 130kg級 奈良英則（警視庁）

《男子グレコローマン優勝者》 48kg級 菊地喜郷（静岡ク）、 52kg級 佐々木昌常（自衛隊）、 57kg級 西見健吉（自衛隊）、 62kg級 出口泰三（和歌山ク）、 68kg級 木村好男（警視庁）、 74kg級 森太郎（奈良ク）、 82kg級 渡部秀隆（自衛隊）、 90kg級 山口孝二（自衛隊）、 100kg級 福辺雅彦（奈良ク）、 130kg級 神子沢健一（自衛隊）

全日本女子選手権（6月11日、東京・城西高）

《優勝者》 44kg級 吉村祥子（代々木ク）、 47kg級 山本美憂（日体ク）、 50kg級 福田京子（代々木ク）、 53kg級 小滝初江（日体ク）、 57kg級 坂本涼子（中京女大）、 61kg級 星川君枝（ユナイテッドスチール）、 65kg級 飯島晶子（日

体ク)、 70kg 級 岩間利香(ユナイテッドスティール)、 75kg 級 脇恵衣子(全日本女子プロレス練習生)、 75kg 以上級 井上京子(全日本女子プロレス練習生)

東日本学生春季新人戦(6月21~23日、東京・駒沢体育館)

《男子フリースタイル優勝者》 48kg 級 河合亨(日体大)、 52kg 級 山口英雄(中大)、 57kg 級 森本正悟(日体大)、 62kg 級 川島健二(早大)、 68kg 級 桜庭和志(中大)、 74kg 級 太田拓弥(日体大)、 82kg 級 笹原洋一郎(日体大)、 90kg 級 藤田和之(日大)、 90kg 以上級 星野章(日体大)

《男子グレコローマン優勝者》 48kg 級 松浦俊之(東海大)、 52kg 級 尾白賢治(日体大)、 57kg 級 坂村智幸(東農大)、 62kg 級 花原大介(日体大)、 68kg 級 山方隆之(早大)、 74kg 級 平原謙也(国士舘大)、 82kg 級 佐々木秀幸(日体大)、 90kg 級 藤田和之(日大)、 90kg 以上級 高橋重則(東洋大)

西日本学生春季リーグ戦(6月29日~7月1日、大阪・大阪府立体育会館別館)

《順位》[1]同志社大(5季連続13度目)、[2]福岡大、[3]近大、[4]、[5]、[6]

全日本エスポアール選手権(7月6~8日、東京・駒沢体育館)

《男子フリースタイル優勝者》 48kg 級 若松正(東洋大)、 52kg 級 藤村和人(日大)、 57kg 級 坪井勇(日体大)、 62kg 級 川島健二(早大)、 68kg 級 太田拓弥(日体大)、 74kg 級 児玉健(中大)、 82kg 級 石庭新吾(アイシン精機)、 90kg 級 藤田和之(日大)、 100kg 級 高橋和生(日大)、 130kg 級 高橋則行(東洋大)

《男子グレコローマン優勝者》 48kg 級 浅川亮介(山梨・峡北高)、 52kg 級 尾白賢治(日体大)、 57kg 級 花原大介(日体大)、 62kg 級 松田昌明(国士舘大)、 68kg 級 明壁正人(山梨学院大)、 74kg 級 伊藤強(早大)、 82kg 級 渡部秀隆(自衛隊)、 90kg 級 高橋和夫(日大)、 100kg 級 野々村孝(山梨学院大)、 130kg 級 神子沢健一(自衛隊)

インターハイ(8月2~5日、徳島・池田高)

《学校対抗戦》[1]鹿児島・鹿児島商工(11年ぶり3度目)、[2]岐阜・岐阜工、[3]秋田・秋田経法大、兵庫・神戸西

《個人戦優勝者》 46kg 級 山口譲二(京都・宇治)、 50kg 級 森進一(鹿児島・鹿児島商工)、 54kg 級 井上威(茨城・霞ヶ浦)、 58kg 級 浜田広嗣(福岡・築上

西)、 63kg 級 宮本健二(徳島・穴吹)、 68kg 級 横山秀和(秋田・秋田経法大付)、
74kg 級 荻田剛志(静岡・沼津学園)、 74kg 以上級 千綿辰也(鹿児島・鹿児島商
工

全国高校生グレコローマン選手権(8月18~20日、東京・駒沢体育館)

《優勝者》 46kg 級 森下浩(和歌山・新宮)、 50kg 級 田中貴範(愛知・星城)、
54kg 級 吉岡和輝(京都・網野)、 58kg 級 石川智久(茨城・土浦日大)、 63kg
級 宮本健二(徳島・穴吹)、 68kg 級 佐藤大(秋田・秋田商)、 74kg 級 和田敏
行(徳島・穴吹)、 81kg 級 戸部徹(秋田・秋田経法大付)、 87kg 級 篠原健一郎
(徳島・鳴門工)、 115kg 級 茂野充宏(和歌山・和歌山北)

全日本学生選手権(8月23~26日、東京・駒沢体育館)

《男子フリースタイル優勝者》 48kg 級 若松正(東洋大)、 52kg 級 水野将嘉(早
大)、 57kg 級 佐々木一郎(日体大)、 62kg 級 奥山恵二(日体大)、 68kg 級 太
田拓弥(日体大)、 74kg 級 得本啓次(日体大)、 82kg 級 石沢常光(早大)、 90kg
級 藤田和之(日大)、 100kg 級 間山泰範(日体大)、 130kg 級 鈴木賢一(大東
大)

《男子グレコローマン優勝者》 48kg 級 山本哲也(日体大)、 52kg 級 清水光二
(日体大)、 57kg 級 中村吉信(日大)、 62kg 級 森浩(日体大)、 68kg 級 今
村浩之(日体大)、 74kg 級 川井孝人(日体大)、 82kg 級 田崎光之(国士舘大)、
90kg 級 園田栄(日体大)、 100kg 級 野々村孝(山梨学院大)、 130kg 級 鈴木
賢一(大東大)

西日本学生新人戦(10月14~15日、大阪・桃山学院大)

《男子フリースタイル優勝者》 48kg 級 井上雄策(近大)、 52kg 級 原健一(桃
山学院大)、 57kg 級 西政仁(桃山学院大)、 62kg 級 堀茂高(近大)、 68kg 級
尾崎弘(近大)、 74kg 級 奥田博生(同志社大)、 82kg 級 木下貴博(近大)、 90kg
級 宮崎隆光(桃山学院大)、 130kg 級 野崎賢治(近大)

《男子グレコローマン優勝者》 48kg 級 井上雄策(近大)、 52kg 級 原健一(桃
山学院大)、 57kg 級 西政仁(桃山学院大)、 62kg 級 山田武生(桃山学院大)、
68kg 級 尾崎弘(近大)、 74kg 級 藤原教雄(近大)、 82kg 級 宮崎隆光(桃山
学院大)、 90kg 級 大西博(近大)、 130kg 級 野崎賢治(近大)

全日本学生王座決定戦(9月29~30日、東京・駒沢体育館) = 団体戦の勝ち点方式

《順位》[1] 国士館大、[2] 日体大、[3] 日大

国士館大は12年ぶり3度目

第1回全日本大学グレコローマン選手権(10月17~18日、東京・駒沢体育館)

《優勝者》 48kg級 加藤欣央(東海大)、52kg級 清水光二(日体大)、57kg級 花原大介(日体大)、62kg級 曾我勝仁(拓大)、68kg級 山田琢也(専大)、74kg級 川井孝人(日体大)、82kg級 永田裕志(日体大)、90kg級 小川司(国士館大)、100kg級 間山泰範(日体大)、130kg級 鈴木賢一(大東大)

《大学対抗得点》[1] 日体大、[2] 国士館大、[3] 中大

国体(9月18~21日、北海道・岩内中央小、旭川市総合体育館)

《成年フリースタイル優勝者》 48kg級 山下忍(茨城・日体大)、52kg級 上島一敏(沖縄・那覇西高)、57kg級 角地山豊(東京・警視庁)、62kg級 奥山恵二(茨城・日体大)、68kg級 五位塚悟(山梨・農林高)、74kg級 原喜彦(新潟・新潟北高教)、82kg級 菊地隆(和歌山・県教育庁)、90kg級 赤石明雄(山梨・東山教育事務所)、100kg級 中西学(和歌山・県教育庁)、130kg級 本田多聞(埼玉・自衛隊)

《成年グレコローマン優勝者》 48kg級 大橋正教(山梨・山梨学院大職)、52kg級 一色啓雅(和歌山・県体育館)、57kg級 佐藤貢(秋田・日体大)、62kg級 長内清一(青森・八戸工高教)、68kg級 堀浩章(岐阜・東濃養護学教)、74kg級 湯浅邦茂(山梨・甲府養護学教)、82kg級 屋比久保(沖縄・北中条高教)、90kg級 東出徹(奈良・高取高教)、100kg級 近藤努(埼玉・自衛隊)、130kg級 出口一也(和歌山・県体育館)

《少年フリースタイル優勝者》 46kg級 余膳和宏(大阪・近大付)、50kg級 窪木浩(千葉・八千代松陰)、54kg級 和田貴広(鹿児島・鹿児島商工)、58kg級 山本康次(栃木・足利工大付)、63kg級 佐々木美樹(秋田・秋田経法大付)、68kg級 横山秀和(秋田・秋田経法大付)、74kg級 荻田剛志(静岡・沼津学園)、81kg級 藤江泰久(岐阜・岐阜工)、88kg級 風見利勝(茨城・霞ヶ浦)、115kg級 中川誠一(兵庫・神戸西)

《少年グレコローマン優勝者》 46kg級 森下浩(和歌山・新宮)、50kg級 田中貴範(石川・星城)、54kg級 吉岡和輝(京都・網野)、58kg級 高橋朋夫(山形・東根工)、63kg級 長和徹(兵庫・神戸西)、68kg級 福田貴司(栃木・足利工大)

付)、 74kg 級 戸部徹(秋田・秋田経法大付)、 81kg 級 外山秀樹(愛知・星城)、
88kg 級 鈴木文雄(秋田・秋田商)、 115kg 級 茂野充宏(和歌山・和歌山北)

全日本大学選手権(11月8～9日、兵庫・兵庫県立総合体育館)

《優勝者》 48kg 級 山下忍(日体大)、 52kg 級 清水一成(日体大)、 57kg 級
佐々木一郎(日体大)、 62kg 級 奥山恵二(日体大)、 68kg 級 太田拓弥(日体大)、
74kg 級 野口篤史(大東大)、 82kg 級 石沢常光(早大)、 90kg 級 岡部政造(東
洋大)、 100kg 級 間山泰範(日体大)、 130kg 級 小幡弘之(日大)

《大学対抗得点》[1]日体大(5年連続12度目)、[2]日大、[3]国士舘大

西日本学生秋季リーグ戦(11月17～19日、大阪・大阪府立体育会館別館)

《順位》[1]同志社大(6季連続14度目)、[2]近大、[3]桃山学院大、[4]福岡
大、[5]徳山大、[6]名商大

全国社会人オープン選手権(11月18～19日、横浜市消防訓練センター)

《男子フリースタイル優勝者》 48kg 級 菊地喜郷(静岡クラブ)、 52kg 級 笹山
秀雄(自衛隊)、 57kg 級 角地山豊(警視庁)、 62kg 級 岡田実(自衛隊)、 68kg
級 外屋敷剛(自衛隊)、 74kg 級 窪田伸広(福井県協会)、 82kg 級 石庭新吾(ア
イシン精機)、 90kg 級 和久井始(自衛隊)、 100kg 級 島田宏(三洋電機)、 130kg
級 大川浩一(警視庁)

《男子グレコローマン優勝者》 48kg 級 三笠修二(東洋YMCA)、 52kg 級 蝦
名康一(自衛隊)、 57kg 級 西見健吉(自衛隊)、 62kg 級 黒飛健(静岡クラブ)、
68kg 級 木村好男(警視庁)、 74kg 級 三宅靖志(東海商船)、 82kg 級 渡部秀
隆(自衛隊)、 90kg 級 山口孝二(自衛隊)、 100kg 級 島田宏(三洋電機)、 130kg
級 奈良英則(警視庁)

東日本学生秋季新人戦(12月5～7日、東京・駒沢体育館)

《男子フリースタイル優勝者》 48kg 級 若松正(東洋大)、 52kg 級 朝比奈巖(日
体大)、 57kg 級 佐藤貢(日体大)、 62kg 級 勝龍三郎(日体大)、 68kg 級 赤
石光輝(日大)、 74kg 級 平塚洋充(日大)、 82kg 級 太田拓弥(日体大)、 90kg
級 赤松知幸(中大)、 90kg 以上級 近藤博和(国士舘大)

《男子グレコローマン優勝者》 48kg 級 竹村星一(東洋大)、 52kg 級 下村保伸
(国士舘大)、 57kg 級 深水真司(日体大)、 62kg 級 田橋治(日体大)、 68kg

級 吉本収(国士舘大)、 74kg 級 木村成明(拓大)、 82kg 級 浅井努(日体大)、
90kg 級 佐々木秀幸(日体大)、 90kg 以上級 星野章(日体大)

全日本女子オープン選手権(1990 年 2 月 16 ~ 17 日、東京・青少年総合センター)

《優勝者》 44kg 級 上林美穂(羽島市連盟)、 48kg 級 山本美憂(朝日住建日体
ク)、 50kg 級 福原邦子(朝日住建日体ク)、 53kg 級 遠藤美子(東洋大)、 57kg
級 坂本涼子(吹田市民教室)、 61kg 級 星川君枝(ユナイテッドスティール)、 65kg
級 飯島晶子(朝日住建日体ク)、 70kg 級 岩間利香(ユナイテッドスティール)、
75kg 級 船越光子(壬生ちびっ子教室)、 75kg 以上級 西川一美(中京女大)